

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(四十五分)

いつごろからだったか、若い人たちが、お互い<sup>たが</sup>の間で「空気読めよ」という言葉を口にするのを聞くことが多くなりました。「空気を読む」とは、何人かで会話や行動しているときに、その場の雰囲気<sup>ふんいき</sup>―「空気」をちゃんと察知<sup>さつち</sup>して、それにそぐわない、はずれた調子の行動・発言をつつしむ、ということです。たとえば会議の席で、新入社員の一人が先輩社員<sup>せんぱい</sup>の提案に対して、「すみません。私はそうは思いません。」などと反論したとき、他の同期の友人が、波風の立つのを心配して、すかさず「空気読めよ!」

「人のふり見てわがふり直せ」とか「長いものに巻かれる」などのことわざが示すように、大人になり、社会にうまく溶け込<sup>と</sup>んでいくためには、「自分」をあまり目立たせず、年長者の言うことを素直<sup>すなお</sup>に聞いたほうがよい、という考え方が、日本には昔からあります。目上を立てるといふことは、自分よりも多くの経験を持つ人々―人生の先輩に対して敬意をはらうことであり、仲間入りをスムーズにはたすためにも大切なふるまいです。日本の若者の多くは、そういうことを敏感に感じ取って、お互いそこからはずれないよう注意し合っているように感じます。

しかし、波風が立つことばかり恐れて、「空気を読む」ことがあたりまえになってしまったら、それは大きな問題です。現代社会は猛スピードで変化していますから、何がよいことで何がよくないことなのか、親や先輩の意見に従<sup>ま</sup>つていけば間違<sup>まちが</sup>いない、とは誰も言えないはずです。自分を育ててくれた親や先輩に感謝しつつも、そこから自立し、自分の頭でしっかり判断して行動しなければなりません。

ところで、アメリカ合衆国という国は、建国の初めから皇帝や王など存在せず、国民が選挙によって国のトップ―大統領を決めてきました。また、多くの州が集まって成り立っている国なのですが、この一つ一つの州に、自分たちのことは自分たちで決める、という権利が大はばに与えられています。そのようなアメリカ合衆国の子どもたちは、かなり幼いころから、自分の意見をしっかりと主

張する練習を繰り返して学校で行っています。近年日本の学校でも行われている「デイベート」（あるテーマについて、賛成側と反対側に分かれて意見を戦わせること）学習は、アメリカの学校教育に学んだところが大きいのです。また家庭においても、他人に頼らない、自分のことは自分で決めることのできる人になれるように、幼児のころから親にきびしくつけられます。中・高校生にもなると、家の手伝いやアルバイトなどをどんどん行い、自分の小遣いは働いて手にするのがあたりまえですし、高校を卒業した後、いったん社会に出てお金をかせぎ、学費がたまったところではじめて大学に進学する、という人もたくさんいます。学費は親が出してくれる人でも、親元をはなれて遠くの大学に通うケースも大変多く、高校を卒業する年にもなると、かなり親から独立した状態になるというてよいでしょう。

日本でも、十八歳から選挙権を持てる、という法律ができました。高校生も、日本、そして世界の未来をも左右するかもしれない政治のリーダーを、自分たちの判断で直接選べる時代になったのです。

さまざまな考え方もつ世界の人たちとの交流も大変な勢いで進んでいる今、これからの若い世代は、日本のこと、そして世界のことを、人任せ、ベテラン任せにはいけません。若者一人一人が自分自身の頭で考えて発言し、行動する必要があるのです。

問一 この文章について、筆者はどういうことを主張していますか。180字ほどでまとめなさい。（ただし、文末は「」です。「ます」「でなく」「」だ。「」である。「」のようになること。）

問二 あなたの住んだ国で、その国の子どもの日常生活が、日本の子どもとの日常生活とちがうと感じた具体例をあげなさい。そして、そのちがいについて、あなたは何かを感じましたか。感じたこととすれば、どういうことを感じたのか、説明しなさい。